

美術学部建築科

養成人材およびカリキュラム編成の方針

建築科では、建築家として必要な総合的能力を養うだけでなく、豊かな知識・思考力・表現力を併せ持つ人材を養成することを目指している。カリキュラムは多様な教養共通科目のほか、実技科目である「設計製図Ⅰ～Ⅳ」と専門科目で構成されており、教員による直接的な実技指導のもと、学年に応じた設計課題によって段階的に建築に関する知識と技能全般を修得するだけでなく、科学的知識や思考力をも養えるような編成となっている。また、少人数教育の恵まれた環境を生かし、学生が持っている感受性の鋭さや表現の独自性を追求できるような指導を行うことを重視している。なお、必要単位を取得することにより、一級建築士の受験資格を得ることができる。さらに2年以上の実務経験を経て、一級建築士の登録が可能となる。

求める入学者像

- ・総合芸術としての建築に関心を持ち、豊かな構成力・構想力・表現力・創造力を持つ者
- ・建築をとおして他者と繋がり、社会に貢献することを志している者
- ・学問に対して意欲的であり、探究心に富んでいる者

卒業認定・学位授与の方針

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を授与する。

カリキュラム構成

【学部1年次】

建築の設計に向かう導入部として、建築の構成やその表現方法などの基礎的な学習と、各自の創造性の探求を目標とする。「設計製図Ⅰ」（場所、基礎、家具）では、家具の設計・制作などをおして、主に身体スケールの空間について学ぶ。専門科目は「塑造」、「建築概論Ⅰ・Ⅱ」、「日本・東洋建築史Ⅰ・Ⅱ」、「構造計画」、「構造力学Ⅰ」、「建築構法」、「CAD 図法演習Ⅰ・Ⅱ」といったカリキュラムで構成される。

【学部2年次】

1年次の学習を踏まえ、「設計製図Ⅱ」（住宅、集合住宅、架構）では、各自の経験を起点とし、諸事例に学び、想像力を広げながら新たな提案へとつなげることを目標とし、個人の空間から集団の空間へと設計対象のスケールを拡張するとともに、空間やそのかたちの実在化を学ぶべく架構をテーマとした課題に取り組む。専門科目は「実測」、「西洋建築史Ⅰ・Ⅱ」、「構造力学Ⅱ」、「構造材料演習Ⅰ」、「建築材料Ⅰ・Ⅱ」、「環境工学Ⅰ・Ⅱ」といったカリキュラムで構成される。

【学部3年次】

2年次までの学習を踏まえ、「設計製図Ⅲ」（教育施設、複合文化施設、地区設計）では、建築の空間的な組織を学ぶとともに、建築の社会性に広く目を向けるべく、集合的な建築や複合的な建築の設計課題に取り組む。専門科目は「建築計画Ⅰ・Ⅱ」、「建築保存論」、「近代建築史Ⅰ・Ⅱ」、「構造材料演習Ⅱ」、「建築一般構造」、「建築設備」、「建築施工Ⅰ・Ⅱ」、「建築社会制度」、「古美術研究旅行」といったカリキュラムで構成される。

【学部4年次】

3年次までの学習を踏まえ、「設計製図Ⅳ」では建築表現を主題とした課題と、「卒業制作」（卒業設計）のトレーニングとしてプレディプロマ課題を経験したうえで、夏期以降は各人の集大成として「卒業制作」（卒業設計）に取り組む。

教育目標				
①幅広く科学的知識や思考力を養う				
②感受性の鋭さや表現の多様性を追求する				
③建築に関連する多様な技術や文化、および建築を取り巻く社会に対する造詣を深める				
④その他、建築士資格を取得するために必要な知識を習得する				
年次	科目		ディプロマポリシー	教育目標
1～4年次	設計製図Ⅰ～Ⅳ		1. 2. 3. 5	①②③④
1年次	必修科目	塑像、建築概論Ⅰ・Ⅱ 日本・東洋建築史Ⅰ・Ⅱ 構造計画、構造力学Ⅰ 建築構法 CAD 図法演習Ⅰ・Ⅱ	1. 2. 3. 5	①②③④
2年次		実測、西洋建築史Ⅰ・Ⅱ 構造力学Ⅱ 構造材料演習Ⅰ 建築材料Ⅰ・Ⅱ 環境工学Ⅰ・Ⅱ	1. 2. 3	①③④
3年次		建築計画Ⅰ・Ⅱ 建築保存論 近代建築史Ⅰ・Ⅱ 構造材料演習Ⅱ 建築一般構造、建築設備 建築施工Ⅰ・Ⅱ 建築社会制度 古美術研究旅行	1. 2. 3	①③④
4年次		卒業設計	1. 2. 3. 5	①②③④
1～4年次	選択科目	共通科目	1. 2. 3. 4. 5	①②